

アナキズム文献センターの 歩みと現在

～ビジュアル資料を中心に～



2015.8.6 広島集会 報告資料

Past and Present of the CIRA-Japana (Center of International Research for Anarchism, Japan) : Focusing on Visual Materials at the Hiroshima Gathering of August 6, 2015

アナキズム文献センターとは

①小史

1) What is CIRA-Japana? A Short History

1970年10月に設立（第1次）の後、10年余りの休止時代を経て、95年に活動を再開（第2次）。2005年に世代交代を含む新体制に変更し（第3次）、現在に至る。

The CIRA-Japana was established on October 1970, but the project was quickly suspended for almost 10 years before it restart its activities in 1995. Ten years later, in 2005, the whole system and staff was renewed.

アナキズム文献センターとは

②設立の経緯

尾関弘氏「現代のアナキズム運動-青年アナキストの武者修行記」（三一新書／1971年）より要約引用

・スイスのCIRA（＊）は各国のミニコミ的な機関紙やパンフレットが多い。他の図書館がいくら金をかけても集められないもの。学者より活動家が圧倒的に多い。そこがCIRAの存在意味。

*Centre International de Recherches sur l'Anarchisme

・スペイン革命中、闘うことが日常の人々によって作られたビラやポスターやパンフ類を多数所蔵。革命が何であったかを伝達してくれるだけの十分な迫力。これら無数のビラやパンフにこめられた人民の情熱が総和されてはじめて、革命が射程に入ってくるのだと語りかけてくるよう。

同じようなセンターを日本にもつくることを考え、数人の仲間の協力をえて、静岡県の富士宮市にそれを建てるに。名前は「日本アナキズム研究センター、CIRA=NIPPON」（＊）。CIRAの名を使うことによって、日本の文献だけでなく、外国の文献・資料も。

※現在「アナキズム文献センター、CIRA=JAPANA」と呼称。

2) How was the process of its first foundation in 1970?

In 1968, a Japanese anarchist student, Hiroshi Ozeki, traveled through Europe and visited CIRA (Centre International de Recherches sur l'Anarchisme) in Lausanne, Switzerland.

Back in Japan, he decided to found CIRA in Japan. He wrote in his book (See, Ozeki Hiroshi, *The contemporary anarchism movement: report on journey by an young anarchist*, 1971, Tokyo):

“In CIRA, Switzerland, there are so many journals and pamphlets which were published by anarchists of many countries. Even other wealthy libraries couldn't have such publications. The authors of these publications are not scholars, but activists.”

Besides the CIRA, any other library could not play such a significant role. For example, the CIRA had so many flyers, posters and pamphlets published during the Spanish Civil War. These are so powerful that we can learn the essence of this revolution. When we read these publications, we can feel the energy from that period and we can understand the revolutionary process that took place.

“After I decided to found the same anarchist information center in Japan, in cooperation with some comrades, we established the center at Fujinomiya, Shizuoka. We named Center for International Anarchism Research, Japan (CIRA-Japana in Esperanto). With this title "CIRA", we thought to collect not only Japanese materials, but also foreign ones.

アナキズム文献センターとは

③活動

3) Activities of CIRA-Japana

文献の収集・整理

主に70年代以降の運動資料や関連書籍を中心に収集。静岡県富士宮書庫と千葉県八街書庫で保管。故人の寄贈も多く、最近ではアナキストクラブの資料も所蔵。

The CIRA-Japana collects materials and classifies them; these materials are mainly produced after the 1970's. They are kept at Fujinomiya and Yachimata, Chiba. There are many donations from the family of deceased anarchists. Recently, the center received many materials from the “Anarchist Club” which lasted from the 1950's to the 1980's.

富士宮書庫－静岡県富士宮市

Fujinomiya archive:

The map of Japan: The blacked region is Shizuoka.





富士宮書庫・外観

A photograph from the outside of the archive in Fujinomiya where the materials are kept.



A photograph of books from inside the archive: We can appreciate the complete works of Shusui Kotoku, Sakae Osugi and Sanshiro Ishikawa, among other books.



Another photograph from inside the archive. We keep the complete works of Bakunin, Kropotkin, among other books.

八街書庫一千葉県八街市

Yachimata archive:

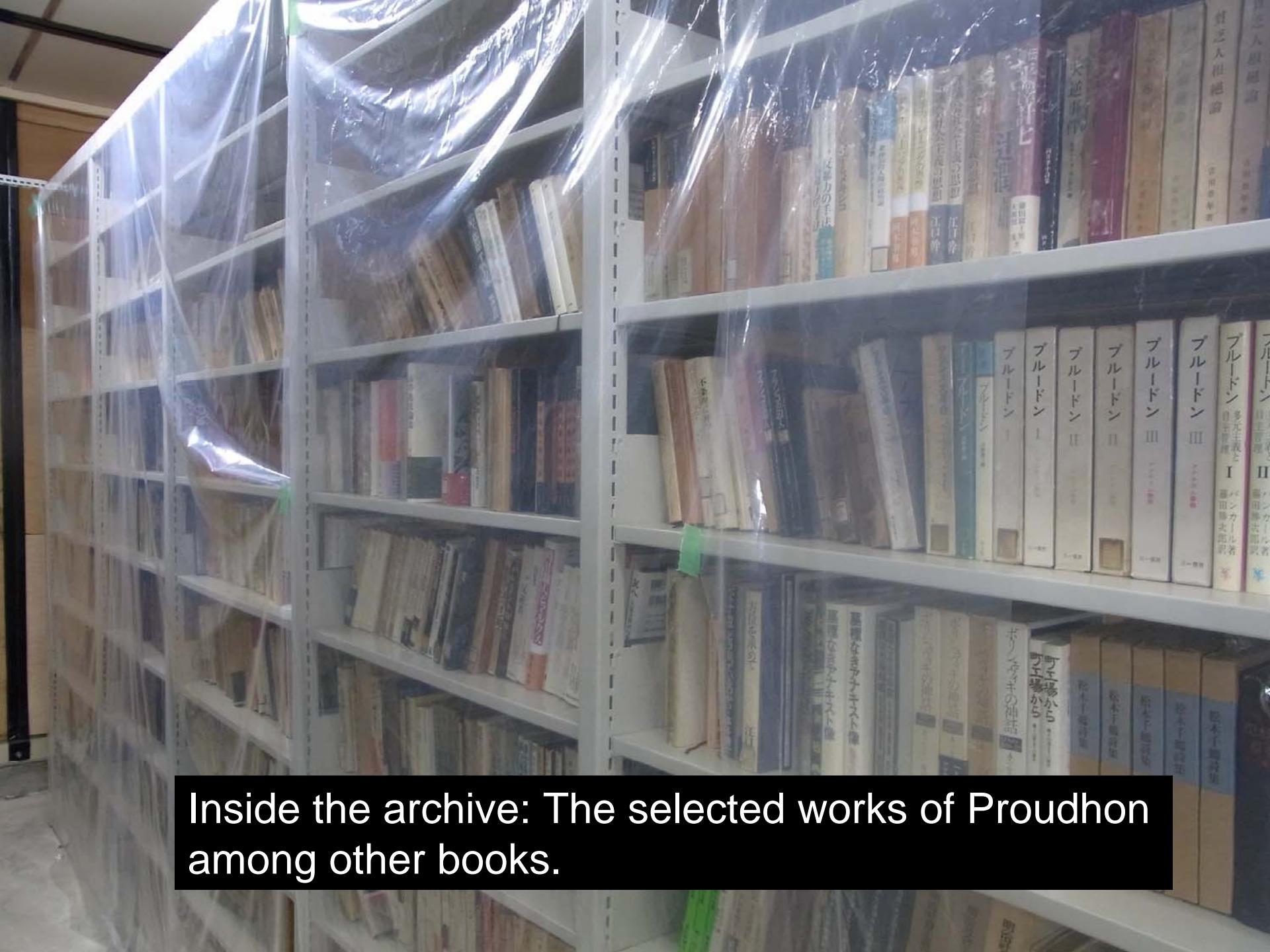
Map of Japan; the blacked region is Chiba.



八街書庫・外觀(左)

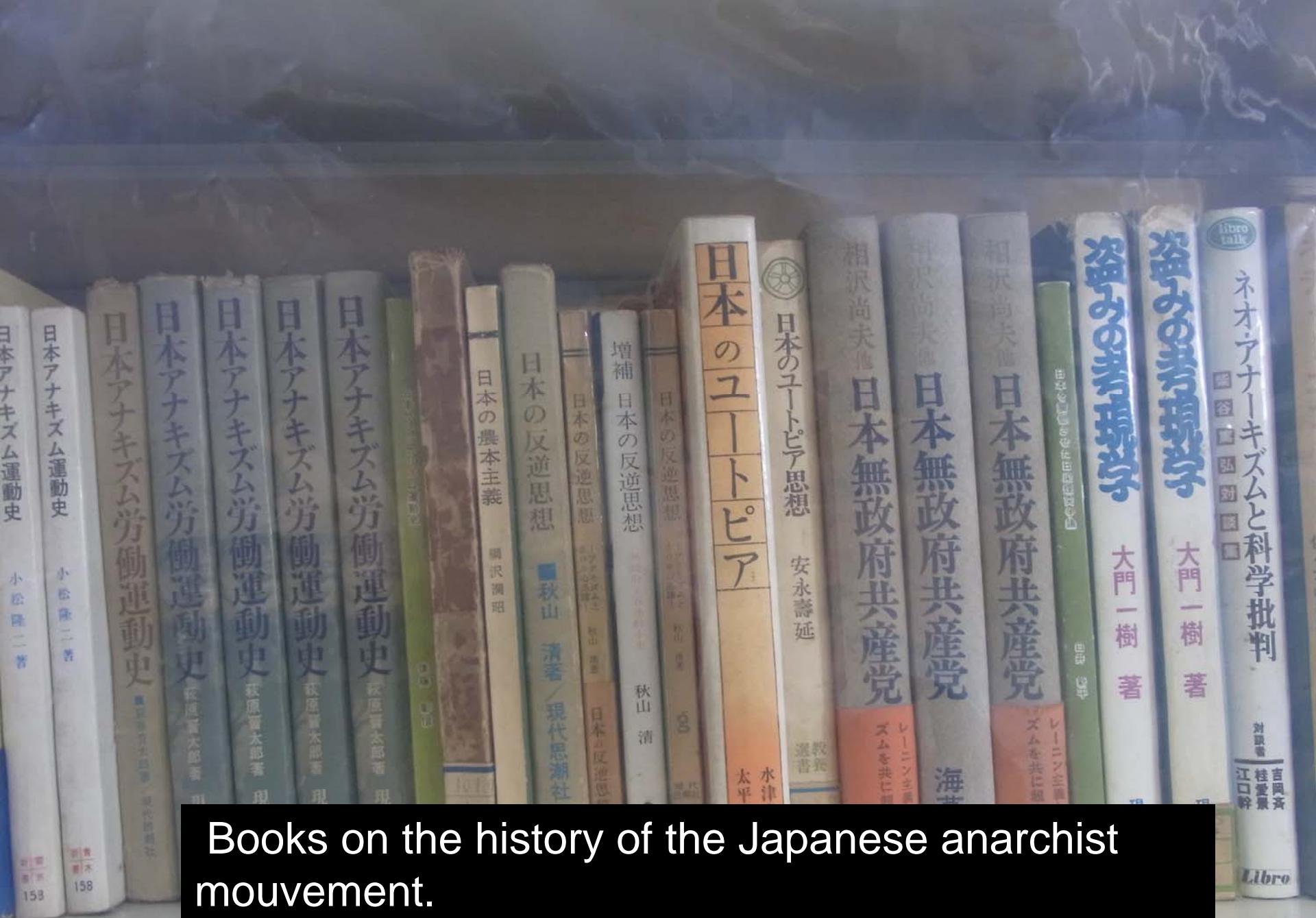
A photograph from the outside of the archive in Yachimata (left building).





Inside the archive: The selected works of Proudhon among other books.

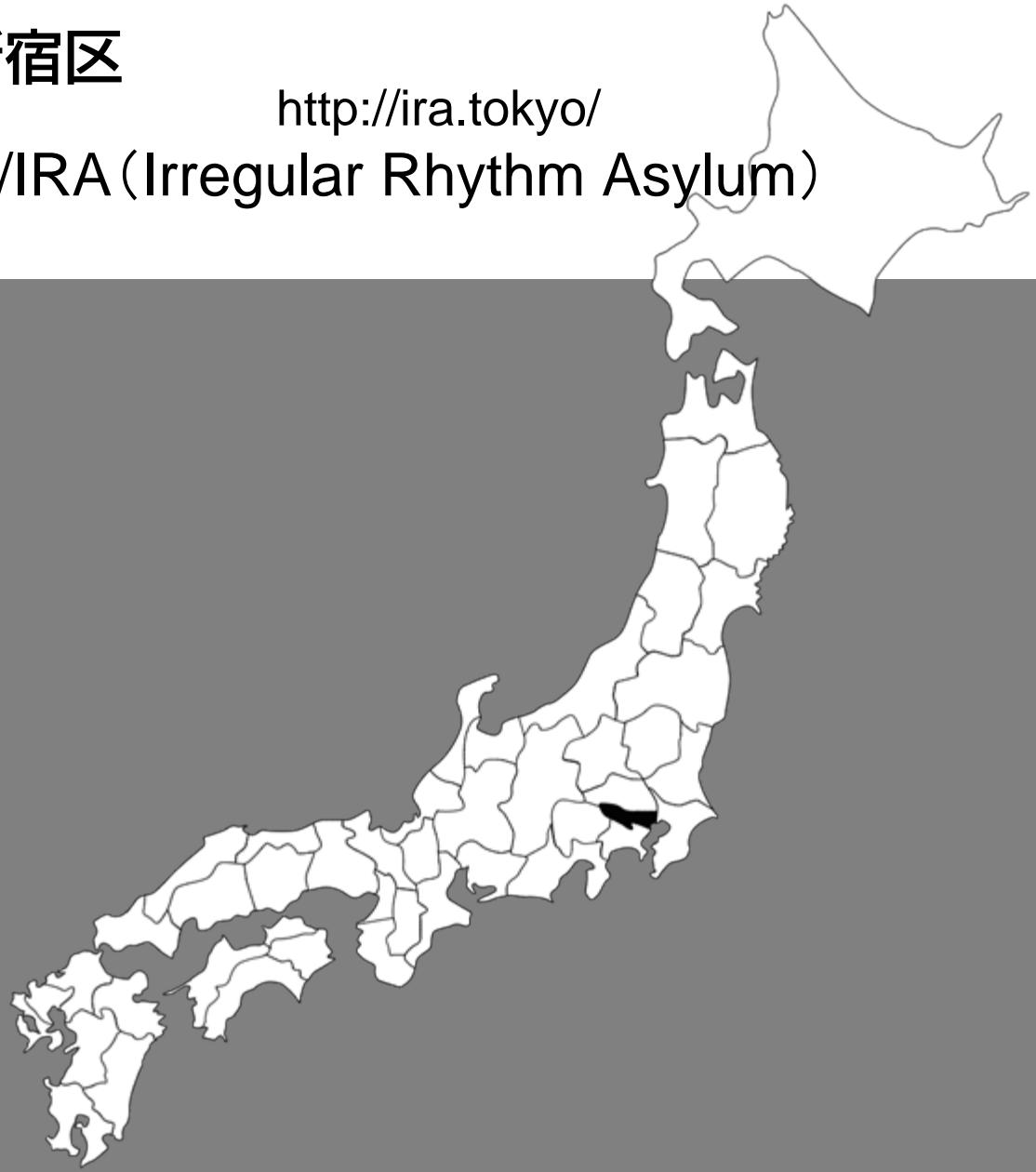
Books on the history of the Japanese anarchist movement.



新宿図書室－東京都新宿区

<http://ira.tokyo/>

Shinjuku Library/Tokyo/IRA (Irregular Rhythm Asylum)



イレギュラー・リズム・アサイラム (IRA) 内





機関紙を整理している風景
Archiving old journals.

収蔵図書

The sort of collected materials:

通常の図書のほか、長谷川進文庫、山鹿泰治文庫、アナキストクラブ文庫などのほか、ポスター、ビラ、機関紙、パンフレット類なども多数を所蔵

There are also the personal archives of Susumu Hasegawa and Taiji Yamaga, and the archives of organizations like the Anarchist Library Club.

Many flyers, posters, journals, etc...

P2
+4キヤ電 34-1523



A photograph from the album of Yamaga: Spanish anarchist Victor Garcia on July 1, 1962 at Dazaifu, Kyusyu.



A photograph from the album of the Anarchist Club with a big black flag.

幸徳以来四十年の血の傳統！

← 每週土曜日發行
タブレット型四頁
一部三〇錢

新平民新聞

日本アナキスト聯盟機関紙

ワカリ易い
経済・文化・政治
人民解放戦線批判

常に人民の敵！
強権は

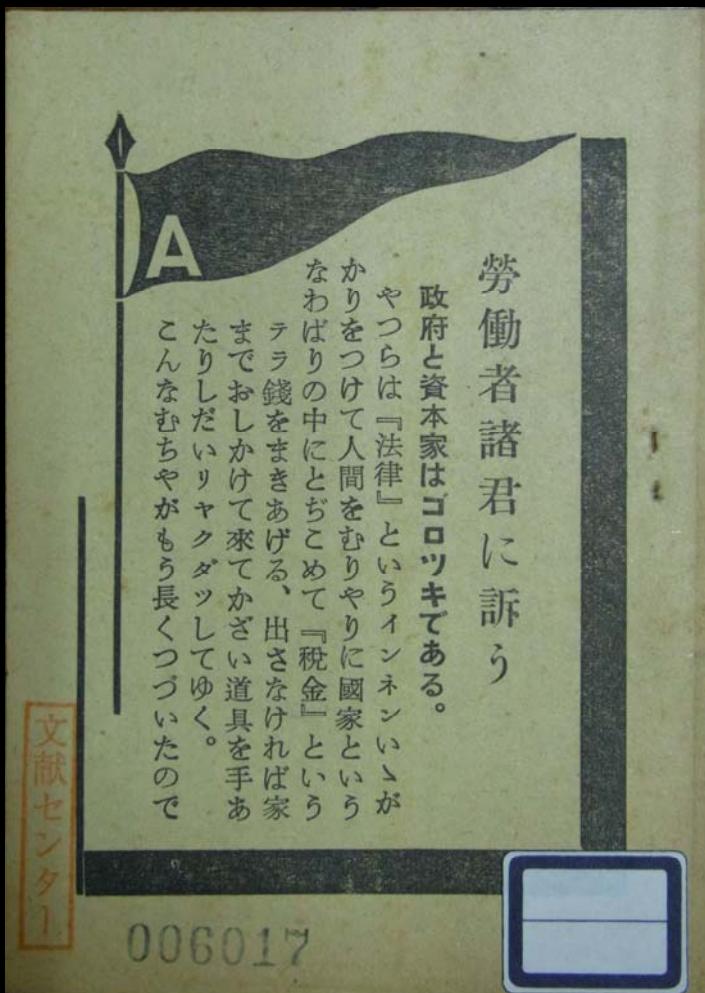
日本アナキスト連盟機関紙「平民新聞」の宣伝ポスター
Poster of "Heimin Shimbun" (Peoples' News) after 1945 (probably in the 1950's): The organ of the Japan Anarchist Federation "Heimin Shimbun"; published every saturday; bloody tradition of 40 years since Shusui Kotoku; the power of the State is always the enemy of the people; the easy way to understand economy, culture, politics, criticism against people's emancipation theory by the Japan Communist Party; Editorial office of Heimin Shumbun, Tokyo, n.d.

東京都芝區新橋七丁目十二番地

平民新聞編輯局

日本アナキスト連盟発行のパンフレット

The front page of a pamphlet:
To the workers; government
and capitalists are all
gangsters who control us with
"rules", control us from the
State and extort from us fee
charges as "taxes". If you
cannot pay, they come
uninvited to your and plunder
your belongings. How long will
they continue with this
nonsense...





A poster used to commemorate the 66th anniversary of the Spanish Civil War.

無政府主義者 全国集会

★1985年8月6日(火)

午後1時～4時

(午後3時よりデモ)

★新八丁堀会館5階

(広島市中区八丁堀8の28)



8.6 HIROSHIMA

Another poster of the
first Hiroshima gathering
in 1985.

アナキズム文献センターとは

③活動

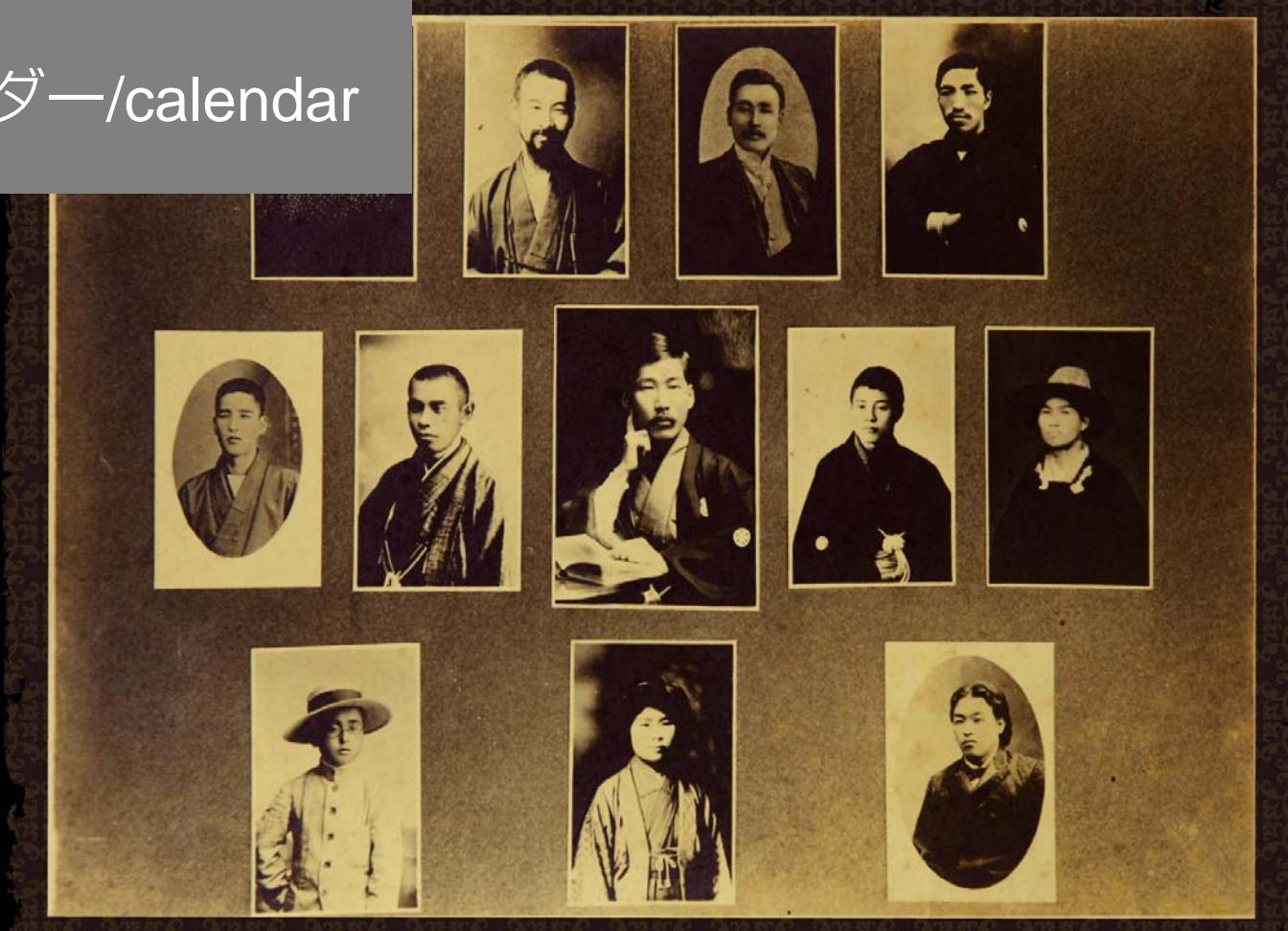
The activities of CIRA-Japana:

情報発信

2007年版から毎年のアナキズムカレンダー発行と年4回のセンター通信発行（6月で31号）のほか、イベントの開催や冊子の発行など

The activities of the CIRA-Japana:
Since 2007, the CIRA-Japana has started to publish an anarchist calendar every year, and it also began to issue a newsletter every 3 months.

カレンダー/calender



2010
Kalendaro



大逆事件
100年





幸徳秋水ポートレート

幸徳秋水

高知県幡多郡中村(現・四万十市)生まれ。土佐自由民権運動の影響を受け、中江兆民の書生をした後の1898年『朝報』の記者となり、社会主義のジャーナリストとして活躍。1901年12月には田中正造のために足尾鉱毒事件の直訴文を起草。日露非戦論を主張し、坪利彦らとともに万朝報社を退社後、1903年11月号と週刊『平民新聞』を発行。筆禍での入獄中にクロボトキンの著作に傾倒する。1905年12月から半年間の渡米。1907年1月、日刊『平民新聞』創刊に参加。2月同紙上に「予が思想の変化」を発表、直接行動論を提唱し、初期の社会主義運動の中にアナキズムの立場を確立させた。幸徳の手によるアーノルド原著『経済組織の未来』と大石誠之助訳のクロボトキン原著『法律と強権』は、秘密出版だが、直接行動派の若者に大きな影響を与えた。一時は病氣で中村に帰郷するも、1908年8月に来京。豊多摩郡淀橋町柏木(現・新宿)に住み、平民社とする(以後、果樹、千駄ヶ谷に移転)。同居した管野須賀子と『自由思想』を発行。1910年3月には平民社を閉じ、湯河原に投宿、執筆活動に専念するも、6月に逮捕。大逆罪で死刑判決を受け、翌年1月24日、市ヶ谷の東京監獄において処刑された。逮捕直前にはば書き上げ、獄中で脱稿した『基督抹殺論』は2月の刊行後、増刷を重ね、その印税は坪利彦により12人の死刑囚の遺族、懲役刑の獄中者らの救援費用に充てられ、また1920年初の屋外マーチの開催費用にも充てられた。

参考文献: 「日本アナキズム運動人名事典」による出版、2004年。



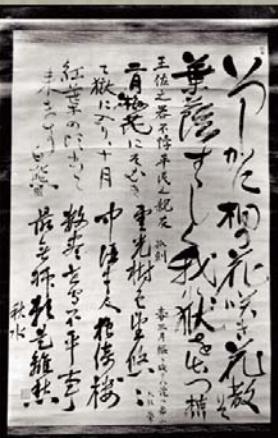
母を想ふ獄中詩

幸徳は1910年11月27日に母と最後の面会を果たす。多治は死刑判決の知らせを聞くことなく同年12月28日土佐中村で死病。

鳩島晴を喰んで烟樹昏し。
愁ひ懐く点滴魂を消さんと欲す。
風風雨雨 家山の夕べ、
七十阿嬢泣いて門に倚る。
獄中雑吟
秋水罪人

(1910年11月10日)

きゅうちょう せいをよんと えんじくらし
うれいさくてんとき たましいをけさんとほっす
かせかぜあめあめ かざんのゆうべ
しづじゅうあじょう ないでんによる



1905年2月、幸徳秋水入獄直前の寄せ書き

1905年2月、週刊『平民新聞』の石川三四郎「小学教師に告ぐ」、無価珍子「戦争に対する教育者の態度」筆禍事件によって幸徳秋水と西(光二郎)白雲(白雲)が入獄する直前、二人と坪利彦が信託した寄せ書き。山口義三(源鶴)と大杉栄の詞意は、秋水刑死後、この寄せ書きに書き加えられた。幸徳の「離愁」七絕をあの世からの「別れの歌」と感じた大杉は、「むしにやまれぬ気持ちで織り残され」の句を書いたのである。

電光 色を樹て望めは悠々たり、
中酒の手人独り情に倚る。
数へ尽す 世間の平ならざることごとを、
最も無聊なるは是の離愁に頼る。
秋水

でんこう しきをたて ながめはゆうゆうたり
ちゅうしゅのかいじん ひとりろうによる
かぞえつづく せけんのへいならざることごとを
もっともぶりよなるは このりしゅうによる

春三月縊り残され花に舞ふ
大杉栄

参考文献: 『西(光二郎)白雲(白雲)の離愁』(七角文庫)、(『日本平民新聞』第29号)

人相傳様
Januaro ★

2011 Kalendaro

アキストたち
戦前・戦後編
1



CIRA
Japana

www.cira-japana.net



大道貴古今

一九五五年
岩佐作太郎

■ 岩佐作太郎による書「大道貴古今」 1958年



■ 1930年前後、左から岩佐、望月百合子、古川同雄



■ 1953年4月、解放運動追悼会にて

1879(明治12)年、千葉県埴生郡棚毛(現・長生郡長南町)に生まれる。98年東京法学院卒業。01年渡米。03年日本人社会主義協会の設立に関与。日露の開戦を前にして非戦論、軍備撤廃を叫ぶ。06年竹内鉄五郎らとアナキストの機關紙『革命』を発行。10年幸徳らが捕らわれるや、全世界の抗議を背に東奔西走、サンフランシスコにおける日米合同抗議集会で主役となり演説、さらに単独で天皇に対して公開状を制作、抗議を行った。14年母病気の報で帰国、郷里棚毛に歸る。13年間の在米生活はアナキスト岩佐を形成し、その洞察力を養った。19年上京、北風会会員となる。以後、様々な活動に関わり、水沼辰夫、納引邦農夫、布留川桂・信など終生の同志に出会う。27年水沼、近藤憲二、古川時雄らと第5次『労働運動』を発刊。中国にも渡り、アナキスト張繼、李石曾らと相知る。上海の国立労働大学、福建省泉州の民団訓練所に潜在指導、朝鮮の同志とも協同し敬愛される。46年5月アナ連結に加わり、全国委員長に就任。「無政府主義宣伝」のポスターを胸にかけ、『平民新聞』を街頭で売り、全国を行脚。どこに行くにもこの姿で車中でも宣伝と対話をを行う。51年6月日本アナキストクラブ創立と同時にクラブ員となる。67年郷里で87歳の「行為の宣伝」の生涯を閉じる。

A
岩佐作太郎
いわささくたろう

アナキストたち

戦前・戦後編

2

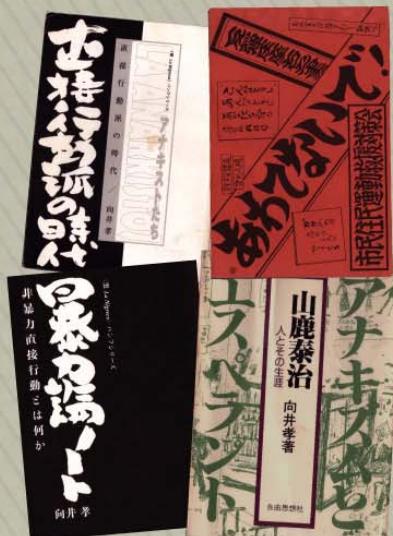
CIRA-JAPANA
2012
Kalendaro



■ 福井県の高速増殖炉もんじゅヒアリング阻止行動にて(1982年7月2日)



■ 関西エスペラント大会(姫路工業大学、1968年5月12日)?



■ 上から時計回りに、市民住民運動救援対策会『あわてないで! 反弾庄左右之書』(1983年)、向井孝『山鹿泰治――人とその生涯 アナキズムとエスペラント』(1984年)、向井孝『暴力論ノート—非暴力直接行動とは何か』(2002年)、向井孝『アナキストの人生』(2002年)、向井孝『アナキズムとエスペラント』(2001年)



■ 犬山の自宅にて。名古屋の若い仲間と談談中に撮影・塙田謹生(2003年7月)

1920年10月4日、東京に生まれる。33年、天王寺商業学校に入学。38年、同校にて俳句を通じて出会った山口英と雑誌『鬼』を創刊。森永乳業に入社した頃からエスペラントを学び、親しんでいく。戦中は三島市の重砲兵連隊に徵兵されたが、泥水を飲んで戦地に行くのをまぬがれた。戦後まもなく46年には、日本アナキスト連盟に加盟し平民新聞姫路支局を開局、山口英と柳井秀とともに詩のグループ「イオム同盟」を結成。52年、WRI(戦争抵抗者インターナショナル)日本部に参加、反戦運動、原水爆反対運動や平和行進に取り組んだ。65年、個人紙『イオム通信』を創刊(~95年)。69年、姫路で自由連合社発足、「自由連合」(~72年)を創刊、70年には『現代暴力論ノート』を刊行した。WRI日本部とともに活動した山鹿泰治が亡くなった後は、山鹿文庫を設立し故人の蔵書・資料の整理を行った。74年以後は、おもに水田ふうとの周辺の女たちと反天皇・反原発・東アジア反日武装戦線支援救援・死刑廃止などの運動に注力していく。同年には『非暴力直接行動』(~94年)を、2000年には『黒 La Nigreco』(~03年)を創刊した。9.11を経て、『現代暴力論ノート』の新訂版として『暴力論ノート——非暴力直接行動とは何か』を刊行。03年のイラク反戦のなかでも広く読まれ、多くの若い同志を得た。『無名の人びと』を大切にする、地べたの運動者であった。2003年8月6日、永眠。

A
む
か
い
こ
う
**向
井
孝**



アナキズム・カレンダー一一〇三

大杉栄・伊藤野枝・橘宗一虐殺九〇周年記念



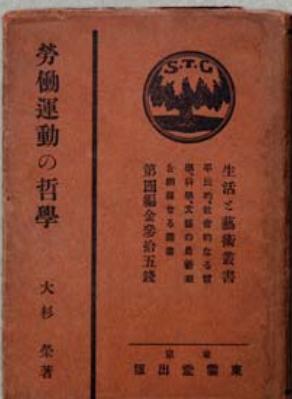
アナキズム文献センター



●近藤憲二ら仲間たちが受け継いできた労働運動社の旗



●鉄券に使用した大杉栄の写真(1922年11月)。同年翌月、国際無政府主義者大会に出席するべく、ひそかに日本を脱出。中国人唐维として旅券を取得、フランスに向かった。



●大杉の著書「労働運動の哲学」(1916年)



●金曜会屋上演説事件の出獄記念写真(1908年4月)。左から山川均、堺利彦、大杉。3人とも絶縁団員半ば「堺と僕とは当時堺の編集で『平民科学』という題で出していた叢書を翻訳していました。山川もやはりそれをやっていた。そしてちょうどこの翻訳が一冊ずつできあがった頃に堺と山川と僕とは満期になった」(大杉『獄中記』より)

大杉栄は、理想としては無政府共産主義を、その実現手段としてはサンディカリズムを唱えた。

サンディカリズムは、労働組合を資本主義社会における労働条件向上のための組織としてだけでなく、社会変革の闘争組織、革命後の社会の基礎組織として重視し、労働組合のサポートーシス、ボイコットやストライキ、とりわけゼネラルストライキによる労働者の全般的な解放、社会革命を目標とする運動思想である。

こうしたサンディカリズムは、思想的にはフランスの商業組合の伝統に連なるブルードン主義的土壤の上に、運動史的には19世紀末から20世紀初頭にかけてのフランスの労働組合の実り方に密着しつつ展開されたものであるが、大杉の受容の特徴は、サンディカリズムが進化論のイメージで捉えられて、彼の社会的個人主義として解釈された点にある。

ただし、サンディカリズムの自由連合社会を進化論的に理解するだけなら、大杉に限られるわけではない。事実クロボトキンは、「この社会は、特定の不变な形態に固定されることがなく、たえずその形を修正していくだろう」というのは、それは生きた進化する有機体となるからである。(『ある革命家の手記』)と自由連合社会を進化論的に理解している。

したがって、大杉の解釈の差異は本質的には「生の拡充」という彼の「反逆」の原理を通じたところにあるといわなければならない。「生の拡充」とは、本能が自己超越的なものへと差異化することである。本能において、自己保存本能に対し自己超越的な「自尊の本能」が優位になると、より自由を求め、既存の自我の枠に反抗するが、その自由の実現のためにには相互扶助が必要となり、それを求めるに至る。そうして相互扶助が自由を育て、それに内実を与える、「こうして〈生の拡充〉は進んでいく。社会は「与えるもの」であり個人の解放を支えるが、国家は「奪うるもの」でありそれを障害する。そして旧来の社会が解体しつつある今、新しい社会が生まれなければならない。そのため大杉は、「生そのものの根本性質である」、生の拡充を新しい社会の出発点にしようとした。その社会が各人の生がそれぞれに拡充されていく多様性社会としての自由連合社会だったのである。

大杉栄と 自由連合論

飛矢崎雅也



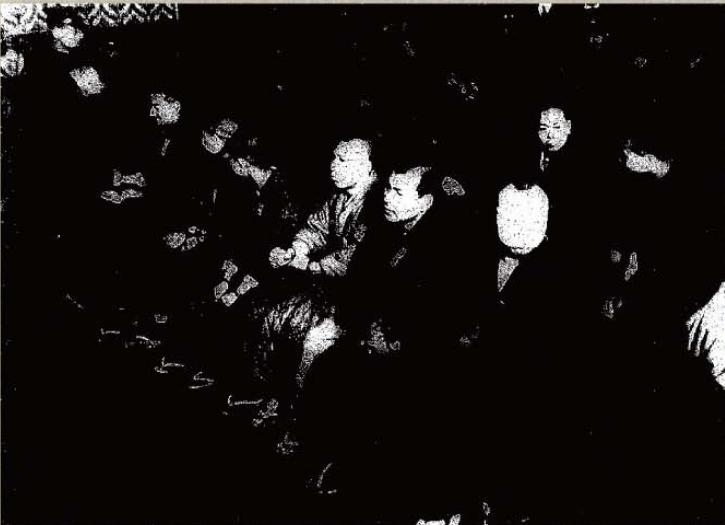
ギロチン社
事件

2014

アナキズム・カレンダー

制作 アナキズム文献センター

ギロチン社事件



ギロチン社裁判第1回公判／1925年4月27日大阪地裁第1回公判(右から二番目に中濱鐵)



1925年5月21日東京地裁第1回公判(左から古田大次郎、倉知啓司、新谷興一郎、和田久太郎)

ギロチン社への弾圧の端緒は、1923年の一斉検挙から始まる。ならず者の掠集団と看做され、浮浪罪で逮捕。その後もギロチン社は各地を転々とし、同年7月から10月にかけては関西で呉服店や紡績会社を対象に断続的に掠を行ふ。そして、同年9月12日に仲が東洋紡績取締役庄司乙吉を拳銃で襲撃(輕傷)、同年10月4日に田中が大杉ら虐殺の復讐として甘粕五郎を襲撃(未遂)、同月16日には内田、小川、古田が十五銀行の行員を襲い行員を刺殺してしまう。この集中的な行動と戦術のエスカレートが後の重弾圧の契機となる。そして1924年3月30日、伊藤と中濱は大阪で実業同志会への掠で、トラック2台分の動員された警官に包囲され逮捕される。同年9月1日には、古田と労働運動社の村木と和田が陸軍大将福田雅太郎を狙うも失敗。同月10日には、潜伏していた古田と村木も逮捕されてしまう。裁判は、東京と大阪で行われた。ギロチン社を単なる犯罪集団として矮小化しつつも、実質的には、福田への復讐、そして大逆の意思をも一緒にたにしての重刑攻撃であった。判決は以下のとおり。

1925年9月10日、東京地裁第1審／死刑
—古田、無期懲役—和田、懲役12年—倉地、懲役5年—新谷

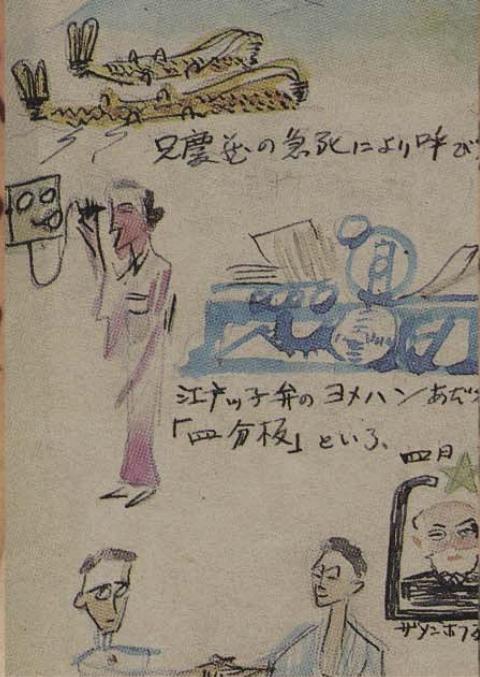
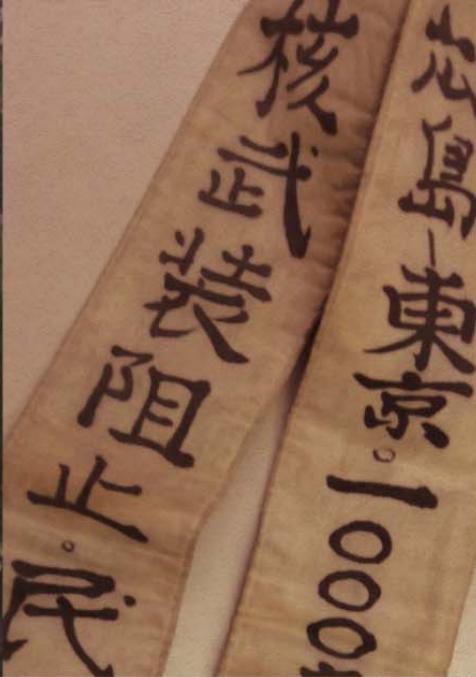
1926年7月19日、東京控訴院第2審／死刑
役12年—倉地、懲役5年—新谷

1925年5月28日、大阪地裁第1審／無期懲役—中濱、河合、小西、茂野、内田、小川、懲役13年—仲、懲役8年—田中、懲役3年—伊藤、上野

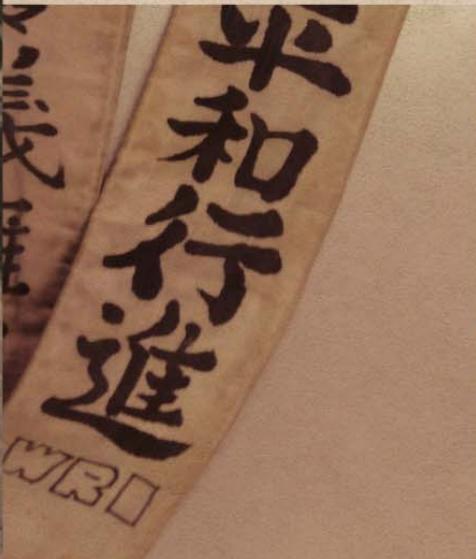
1926年3月6日、大阪控訴院第2審／死刑—中濱、無期懲役—小西、河合、懲役15年—茂野、内田、小川、仲、懲役8年—田中、懲役3年—伊藤、上野

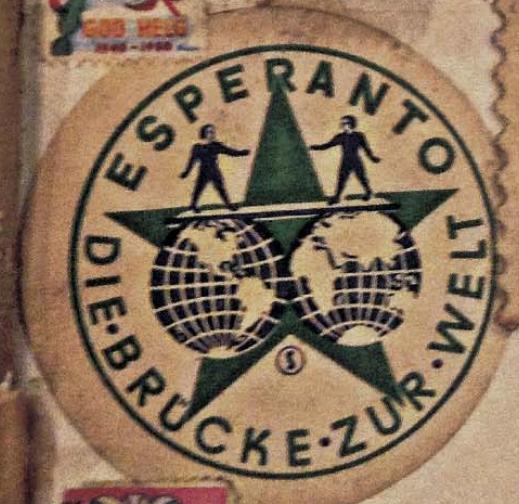
ほかに、中濱脱獄を図ろうとして逮捕されたグループの判決は以下のとおり。

懲役7年—山田、小西(武)、懲役5年—篠部、懲役4年—小西(松)



アナキズム・カレンダー 2015 ★ 山鹿泰治 *Taiji Yamaga*







Some events are organized by the CIRA-Japana, e.g. lectures, second hand anarchist book fair, exhibition of old anarchist journals or the Yamaga archive.





ANARCHIST USED BOOK MARKET



第一回
アナキズム一箱古本市

七月二十四日(土) 十四時~十九時

於 カフェ ラバニーリア
新宿区新宿二丁目二十九

どんな「アナキズム」の本が集まるかは当日のお楽しみ。稀少本、珍本あり? 参加者も募集! 参加費五〇〇円(先着五名程度)。あなたが「アナキズム」と思えば何でもオーケーです。



参加希望者は、EDITION01@gmail.comか、
イレギュラー・リズム・アサイドまで。



DESIGNING ANARCHY

ルーファス・シーガーの表紙デザイン展





山鹿泰治展

——エスペラント・アナキズム・DIY

山鹿泰治は1892年(明治25年)、京都で最初の印刷所立林堂の12子として生まれました。

1907年に上京、舎字工として働く傍らエスペラントを学び、大移栄との出会いからアナキズム運動へと飛び込んでいきます。エスペラントによって海外のアナキストと通信を重ねた山鹿は上海へと渡り、アナキスト・紹復とともに秘密出版を行うなど交流を深めていきました。大移のアナキスト・インター出発の際は北京にて被放逐者調達に尽力、大移らの虐殺がおこるとエスペラント通報でその詳細を世界各國へと送りました。その後は台湾、高麗、フィリピン、マニラへと移り住み、海外との通信を継続しながら、私家版『世界語老子』(100巻)を印刷・発行。戦後は戦争抵抗者センター(WRI)などに尽力、68歳にしてインド、WRI世界大会に参加し、その後年まで国境を越えた交流に努めました。

今回の展示では、既・向井孝志整理し、現在はアナキズム文庫センターが所蔵する山鹿文庫から、山鹿泰治の著書や関連資料・写真を公開するほか、生来の科学心・冒険心のもじみじであった山鹿の幼少時代、最も得意のスケッチ、DIY精神溢れる「科學(かがく)ノート」などをご紹介します。

井によらず、国家によらず、われ等のこととはわれ等自身で決すべし
Nek do, nuk tame, naru atenji aranju ni aseni!

明治・戦中・戦後と国境を越えた通商を経て、エスペラント・アナキズムそしてDIYを実践した山鹿泰治という人の軌跡、一般民の生きざまを、本郷において少しでもお開みて頂ければうれしいです。

2014年5月24日土
~6月1日日
OPEN 12:00~20:00 9月水の日





出版／他



The CIRA-Japana also publishes the catalog of their archives and pamphlets.

関東大震災90年

大正アナキズム
ト観云帖



廣畠研二

HIROHATA Kenji

編・著

7/30 DVD発売

<http://sturm-und-drang13.net/>

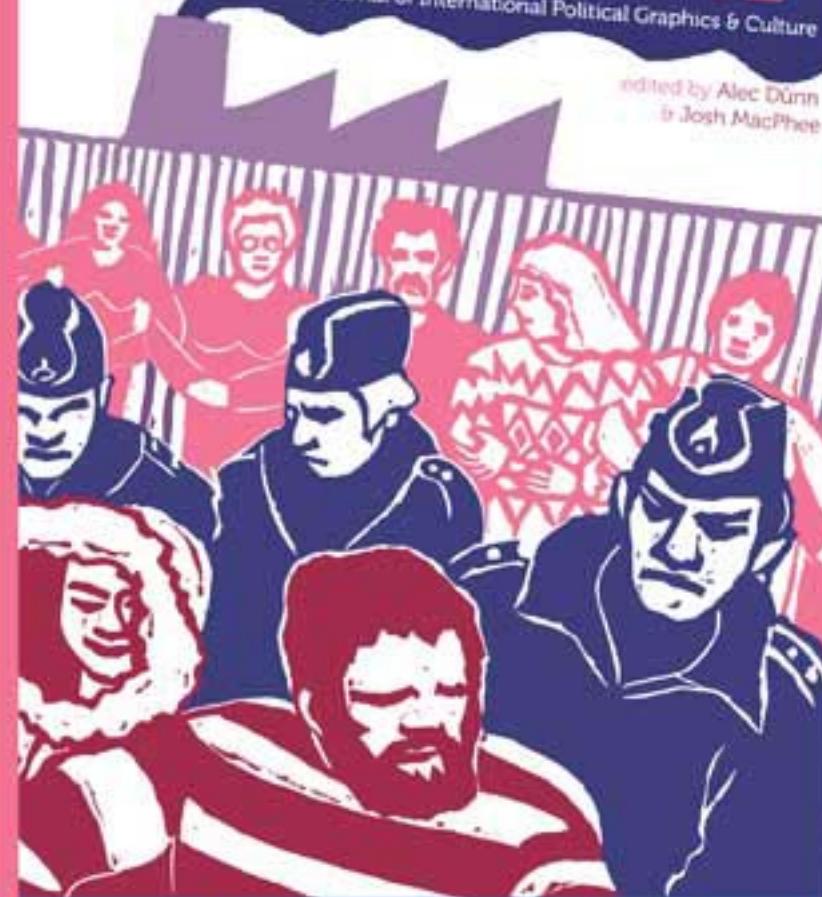


In 2013, this movie “*Sturm Und Drang*” features
Japanese anarchists of the 1920's. It was produced by
Junji Koya with the help of the staff and members of the
CIRA-Japana.

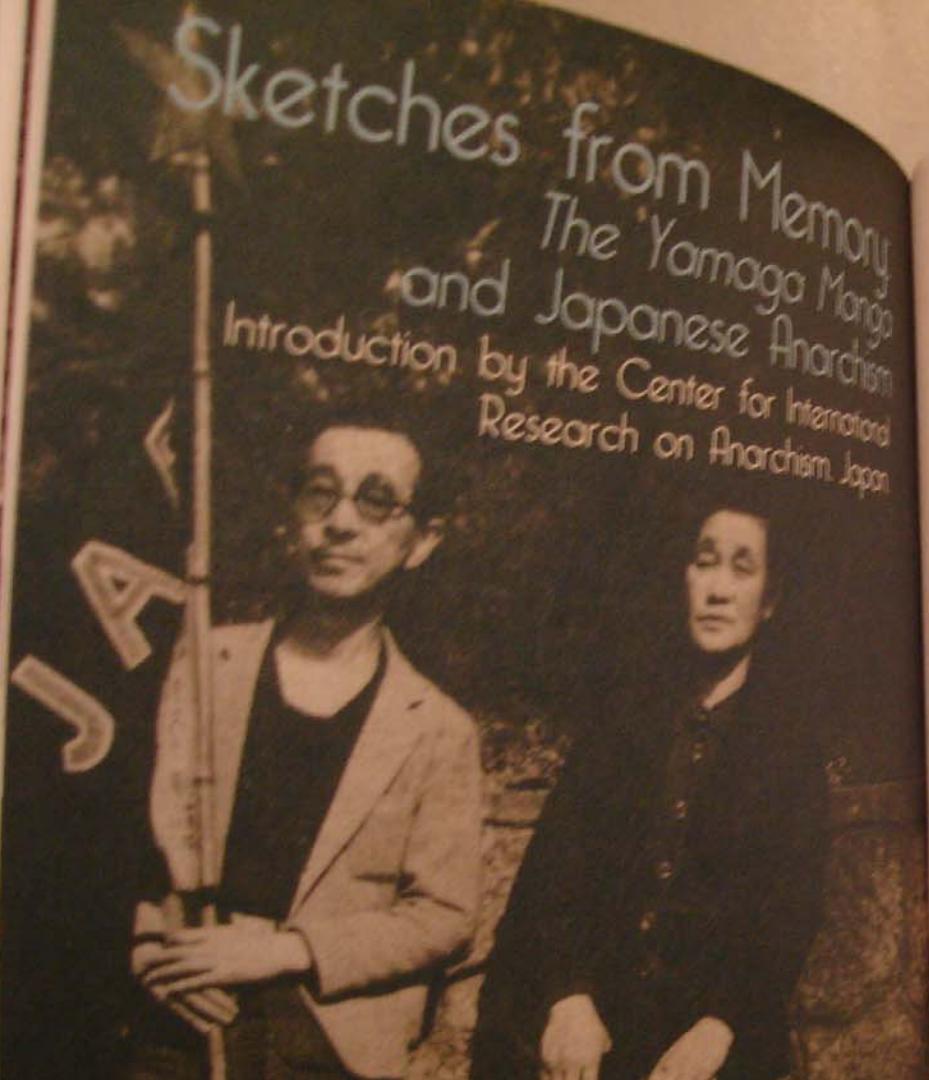
SIGNAL:02

A Journal of International Political Graphics & Culture

edited by Alec Dunn
& Josh MacPhee



- Malangatana's Fire
- Danish Collective Røde Mørk
- Painting the Walls in Revolutionary Portugal
- Anarchist Manga
- Oaxacan Street Art in Perspective
- Cranking the Gestetner
- Selling Freedom



Taji Yamaga was a seminal figure in the early anarchist movement in Japan. A printer and propagandist, Yamaga was involved in international labor, anti-militarist, and anti-fascist struggles. He traveled extensively and worked with some of the most well known figures of Japanese anarchism, including Sakae Ōsugi, the Bluestocking Society, and Noe Itō. Yamaga was also an avid Esperantist who produced translations, collaborated, and corresponded with hundreds of comrades abroad. In his later years Yamaga was a crucial figure in the sharing of stories about anarchist history in Japan. *The Yamaga Manga*, printed here, is a visual autobiography drawn by Yamaga towards the end of his life.

Taji Yamaga was born into a printing family in 1892 in Kyoto. His father, Zenbei, had established the first movable-type printing press in the area. At the age of fifteen, Yamaga moved to Tokyo, where he studied Esperanto with the historian and noted Esperantist Katsuji Kuroita (1874–1946). Kuroita was the founder of the Japan Esperanto Society (Japana Esperantista Asocio), which had an office where Yamaga lived. At the age of sixteen, Yamaga served as the secretary of the Japan Esperanto Society.

Soon after twelve anarchists and socialists were executed in the High Treason Incident of 1911, Yamaga borrowed a coworker's copy of Peter Kropotkin's *Conquest of Bread*, which greatly influenced him. Later that year Yamaga was introduced to the well-known anarchist Sakae Ōsugi (1885–1923). Upon Ōsugi's recommendation, Yamaga went to Shanghai in March of 1914 to meet Li in Shifu. Yamaga wrote articles in Esperanto for *The People's Signal*.

English article and pictures “Sketches from Memory, from Yamaga Manga and Japanese Anarchism”, published in the *Signal, A Journal of International Graphics & Culture*, 02, PM Press, 2012, pp.110-141.

アナキズム文献センターとは

④課題

整理途上の蔵書目録や富士宮と八街に分散かつ保管面で課題がある書庫の問題、世代交代の問題（第一世代が60代半ば以上）などもあり、より積極的なご支援を求めていきます。

Some problems to solve: The lists of archives and books are incomplete. The books and archives are dispersed in Fujinomiya and Yachimata where the warehouses are not safe. The majority of members and participants are more than 60 years old. We need more young members and positive support.

会員募集中

会費は、
1口1,000円/年～
＊年4回（3、6、9、12）通信送付
＊2口以上で通信＋カレンダー贈呈

We are waiting for new members. The lowest member fee is only 1,000 yen per year. We send to members the newsletter four times a year. If you give us more than 2,000 yen per year, we will send you not only the newsletters but also the calendars.

ありがとうございました。

Thanks for your attention!



contact@cira-japana.net